



平成27年度新規就農者との懇談会が1月8日に、新規就農者 18名と、新潟県・佐渡市などの関係機関を含む総勢 60名の参加で開催されました。近年、新規就農者が増加しているため、新規就農者がスムーズに農業経営ができるよう、ニーズに即した支援体制を構築することを目的とした懇談会が年に2回実施されています。

懇談会の中では、佐渡市赤泊地区の佐々木健二さんから「我が家の農業経営について」と題して事例報告がありました。佐々木さんは「平成19年に新規就農し、育苗7300枚、水稲140a、干柿150a、その他ゴーヤや採種南瓜などに取り組んでいます。収入の半分は加工柿で、常に作業の効率性を考えながら作物選定をしています。これからの目標は、島外向けに収益率のよい生産物を増やすことと、米と加工柿の品質向上に努めることです。サラリーマン時代と比べると収入が上がり、時期によってまとまった休みが取れるので、家族との旅行などで過ごす時間が増えて、就農してよかったと思っています。」と話されています。



佐々木健二さん 中央奥



旧年中は特別のご高配を賜り
厚く御礼申し上げます
皆様のご健勝と貴社の益々の発展を
心よりお祈り申し上げます
本年も変わらぬお引き立てを
宜しくお願ひ申し上げます

平成28年産「環境にやさしい佐渡米づくり」カレンダーが



米生産農家全戸に配布されました。カレンダーには、毎月の田んぼの管理ポイント、高品質米づくり作業のスケジュールの目安や、佐渡米生産工程チェックシート

(JA佐渡版GAP)などが掲載されています。

カレンダーにはとても分かりやすく、佐渡米作りにかかせないポイントを掲載することで、米生産者の皆さんには好評です。今年もおいしい佐渡米を皆さんにお届けできるよう生産者と共に努めてまいります。



レタスを作る予定との話を伺いました。最後に、谷地田さんは「昨日直売所に大根を2本出したら、すぐ売れてしまったよ」と素敵な笑顔で話されました。

谷地田さんは「うちの野菜と花は全部直売所に出しています。花の色、虫の予防や出荷時期などを考えながらコツコツやっています。野菜は無農薬で栽培しているので、外見はあまり良くないけど、直売所に出すと見た目を気にせず、買ってくれるので、有りがたいです。時々ほかの生産者の野菜をチェックして、誰も作っていない種類や新しい品種の野菜作りに挑戦したりして、工夫をしています。」とおっしゃっていました。



谷地田美智子さん「やちだ みちこ」
JA佐渡直売部会生産者の谷地田さんは、10数年前から毎年、水稲苗の育苗後のハウスメで野菜と花作りを行っています。当初は、花の品種を決めるのに悩みましたが、菊花に取り組むことにしてスタートしました。JAや普及センターの方からの指導を受け、平成10年からJA佐渡の直売所に出荷できるようになりました。



谷地田美智子さん

谷地田美智子さん「やちだ みちこ」

(72歳)

